

■研究・実践の課題（テーマ）

コロナ禍終了時に起こる子どもの学力低下に関する提案
一日進市少年少女発明クラブの関わりを通して—

■主任研究者 安達内美子

■共同研究者 新谷 裕

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

1、研究の目的

- ① 学校休業や学校行事の中止は、子どもの学習意欲の減衰といった大きな問題を引き起こしているのではないか。
- ② この問題を解決するためには、学習内容を現実社会・職業・人間とのかかわりの中で取り組ませる教材開発・授業展開に置くことによって、学習意欲の喚起につなげていけないか。
- ③ 学習状況の改善には、まず学習意欲の向上を図る必要がある。

2、調査期間及び対象者・調査方法

①期間：2021 年から 2023 年の 3 年間

②対象：日進市少年少女発明クラブ（小学校 4 年生～6 年生 100 人）

比較：湖西市（静岡）106 人 各務原市（岐阜）50 人 栗東市（滋賀）8 人 大津市（滋賀）96 人

③方法：日進市では、質問紙「講座終了時のアンケート」及び講座観察を行った。

先生の質問は、わかりやすかったですか。①わかりやすかった②難しかった
難しかったところを具体的に書いてください。

講座の中で印象に残ったことを書いてください。

比較対象者については、指導者及び事務局担当者へのインタビューを行った。

3、2021 年コロナ真ただ中においても、休業はあったものの日を改めて実施するなど日進市の発明クラブはすべての講座を無事終えた。2022 年の活動は、休業もなく順調に終えた。2021 年の全国の小中学校においては、6 割を超える学校で、休業が余儀なく行われてきた。多くの子どもたちは、2020 年から 3 年もの間マスク生活に耐えてきた。マスクの下には言いたくても言えない幾多の困難や試練をもって今コロナ禍を開けようとしている。コロナ禍にあって学校は、臨時休業期間中に家庭学習として教科書に基づく学習内容を学校が作成したプリントや学習動画等を可能な方法での配布・配信してきた。果たしてこれで終わりにしてよいのであろうか。日進市や大津市では、同じような講座後の感想をもとに分析している。一方積極的な評価を取り入れている湖西市については、現在これまで蓄積してきた評価を講座にどう生かしていくかを検討している。

そこで、日進市の発明クラブの評価について紹介しよう。講座終了時に受講者に対して発明クラブでは毎回「講座後アンケート調査」を取って、指導者「反省会のまとめ」とともに公表している。

講座後アンケート調査

(ア)先生の質問は、わかりやすかったですか。①わかりやすかった②難しかった

(イ)難しかったところを具体的に書いてください。

(ウ)講座の中で印象に残ったことを書いてください。

アンケート調査結果 表1 参照

4、考察

このようにして培われ動機・やる気は、継続して行われることによって自分のものとなり、理科が好きの子どもにとっては格好の刺激のもととなりうる。学習は、自ら進んでやらない限り自分のものにはならない。やらされている間は、外発的な学習であって、子どもの自ら学ぶ意欲が発現するプロセスへとは繋がらないのである。自ら学習に取り組むとは、自分がいま直面している問題をいかに攻略していくかにかかっている。それが「子どもの自ら学ぶ意欲が発現するプロセス」なのである。目的の①については、学校休業が大きなネックになっている。学習意欲の向上に必要な、安心して学習できる教室環境の整っていることが肝心である。次に授業内容であるが、理科が好きな子が多いので指導内容がよく分かり面白いといった点で、発明クラブはこの目的をクリアーしている。客観的な有能感が形成及び非認知能力の活用とともに講座内容が厳選され、指導テクニックが優れ友達と協力して行われている点でこれもクリアーしている。目的②、③においても、十分に目的をクリアーしている。学習習慣については、小中学校を卒業して、さらに上の学校へ進むないしは社会に出て様々な問題に直面した時にわかるのである。最終的には、自己学習力を身につける指導がなされていけば、大きな学習意欲の低下は阻止・挽回できるのである。